

令和六年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

優秀賞

## 「チョコレート危機から考える水害と地球温暖化」

愛媛大学教育学部附属中学校

三年

井上 月乃

いのうえ つきの

私の日常には、いつも大好きなチョコレートがある。あるとき、「チョコレート危機」が、近い将来起こるといった記事を目にした。調べると、カカオ豆の高騰によって、この一年でチョコレートの価格が三倍にも跳ね上がっている事実を知った。カカオ豆の高騰の主な原因は、天候不順からくるカカオの不作だ。

天候不順の中身は大きく分けて三つある。一つ目は、干ばつ。それによってカカオの木が枯れてしまう。二つ目は、大雨洪水で農地がダメージを受けたこと。三つ目は、気候変動によって新たな病害虫の被害が増えていること。この三つが天候不順の大きな中身だ。遠い外国での出来事だが、近年、日本で起こっている集中豪雨や温暖化による農作物の被害を思い出した。水は、農作物の栽培だけでなく、私たちの生活にもなくてはならないものだ。そして、当たり前私たちの生活に存在している。私の住む瀬戸内海地方は、降水量が国内においては、多いほうではない。しかし、生まれてから今までの間、水不足を普段の生活の中で強く感じたこともない。水不足になっても、ダムなどの貯水施設が整っていて、生活が守られているからだと思う。

それに比べると、突然起こる集中豪雨に対しては、備えに限界を感じている。

二〇一八年に起こった西日本豪雨では、私の住む愛媛県でも大きな被害を受けた地域があった。私の父や母が子供のころは、集中豪雨が現在のように頻繁には起こっていなかったと言っていた。ではなぜ近年、集中豪雨という言葉をよく耳にするようになったのか。水害を考える上で忘れてはならないのが、地球温暖化だと思う。集中豪雨や雨の降り方が変わってきている原因が地球温暖化による気候変動の影響

だからだ。海面の水温が上昇すると、積乱雲が発生しやすくなる。それがたくさんできることによって、線状降水帯になり、豪雨になることを学んだ。

将来、日本では降水日自体は減少するものの短時間強雨が増加すると予測されている。地球温暖化が進行すれば、今後さらに豪雨災害が増加することになる。ならば、進行を遅らせなければ、と誰もが考えてきたはずだ。日本はもちろん、諸外国も対策してきた。

地球温暖化を抑制するために私たち一人一人が普段からできることは何か。現状を正確に知り、学ぶこと。自分に何ができるか探し、考えること。関心のない人に伝えること。普段の生活の中でできることに取り組むこと。すぐに始められることばかりだと思う。

成果が出るまでには何年もかかる。地球規模のことで、気が遠くなりそうだが、無関心でいることが一番よくないことだと思う。

地球温暖化の対策と並行に貯水施設の見直し、豪雨に耐えうる都市づくりの整備など、水害に対する課題はまだまだあると思う。

私たちは水がないと生きていけない。日々感謝し、大切に水を使用したい。それだけでなく、水の脅威にも備えることが大事だと思う。

瀬戸内の美しい海や山、澄んだ空気をこの先も残していきたい。そして、今までと変わらず、チヨコレートを楽しむことができる生活が続くと嬉しい。